

GIGA スクール構想の推進について

1 徳島市の教育 I C T 環境の整備状況

(1) 高速大容量の通信ネットワーク

- ・小・中学校の全45校に校内通信ネットワーク工事（2月15日）
- ・タブレット端末用の充電保管庫の設置（12月中）
- ・外線接続回線の高速化（100メガ→1ギガ）工事（本年度中）

(2) 1人1台タブレット端末の整備

- ・小・中学校児童生徒に、1人1台タブレット端末を整備（12月中）
- ・誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現
- ・各校ごとの教員研修を実施（1月）
- ・個別学習ドリル、ウイルス対策、Web フィルタリング、運用・保守・コールセンターサービス

2 徳島市子どもの学び推進プロジェクト

「徳島市子どもの学び推進プロジェクト検討チーム」の報告

(1) 第1回：令和2年5月29日（金）15：30～

- ・ICTを活用した子どもの学びのサポートについて

(2) 第2回：令和2年6月5日（金）15：30～

- ・1人1台端末等に関する情報提供依頼(RFI)について
- ・端末の仕様と使用方法について

(3) 第3回：令和2年12月22日（火）15：30～

- ・（仮称）徳島市独自の取組（学校教育・家庭教育・遠隔教育）

一人一台タブレットと高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する

家庭教育



家庭学習の充実

タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習

不登校等児童生徒への対応

臨休時のオンライン授業

学校教育

学習活動の一層充実

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	「1人1台端末」ではない環境	「1人1台端末」の環境
一斉学習	教師が電子黒板等を用いて説明し子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる	教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる →子どもたち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
個別学習	全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)	各人が同時に別々の内容を学習できる 各人の学習履歴が自動的に記録される →一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に
協働学習	グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子はいつも『お客さん』に)	一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる →全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる

子ども主体の学習活動や先生主導による学びの場面で活用できます

対話的な学び (表現・協働)

電子黒板で共有

深い学び (整理・分析)

思考ツールを活用

学びの過程の振り返り (記録・再現)

学びのデータを活用

遠隔教育

日本語指導が必要な子どもを支援する遠隔教育

外国にルーツを持つ児童生徒等と日本語指導教室等をつなぎ、日本語指導の時間をより多く確保する

子ども個々の理解状況に応じて支援する遠隔教育

個々の児童生徒と学習支援員等を個別につなぎ、児童生徒の状況に応じて学習のサポートを行う

不登校の子どもを支援する遠隔教育

自宅や適応指導教室等と教室をつないで、不登校の児童生徒が学習に参加する機会を増やす

病弱の子どもを支援する遠隔教育

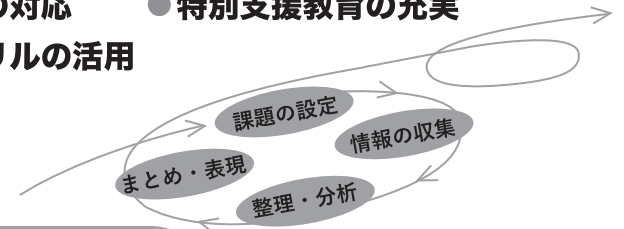
病室や院内分教室等と教室をつないで、合同で授業を行うことで、孤独感や不安を軽減する

徳島市 子どもの学び 推進プロジェクト

一人一台タブレットと高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する

徳島市の取り組み

- 学力向上への授業改善研修
- 情報ネットパトロール ● 心の教育の充実、情報モラル
- Edtech 補助金による学習ソフトの活用1月～3月
- ICT 支援員・学校支援ボランティア
- 不登校等への対応 ● 特別支援教育の充実
- 個別学習ドリルの活用



探究へのプロセス

学びをつなぐ STEAM 教育
(STEM 教育を基本とした教育手法)

